

8月にひときわ目立つ花を咲かせる節黒仙翁、花を咲かせる前から茎の節が黒く分かり易い。

30年前に山に移り住んで初めて山草の名前がわかったのがこの花で、そのせいでいまだに愛着を感じています。今年になっていろいろネット調べて見て、繁殖する場所が今まで間違っって認識していたことが分かりました、最初にかなりの数の花が咲いていた場所がとなりの非常に日当たりの良い場所であったのでそう思いこんでしまいました、山地の林下に自生と記載されているところから、咲いている自宅の庭を見直して見ました、多くは1日ひなたのところはなく、陽もあたるが日陰もあるところにありました。



<節黒仙翁の花>



【ナデシコ科・センノウ属の多年草】

花ことば 転職・転機。

誕生花 9月14日。

センノウの由来

説1

中国ではナデシコ科の植物のことが「センノウ」と呼ばれており、その仲間だから。

説2

京都の「仙翁寺」(現在廃寺)で栽培されていたから。

長年増えればいいな・いいなと思い自然に任せていました、20年前くらいは家のまわりにしかなかったのが、数年前から家の下20mにも数株、今年は50m下に1株生えてきました。

3年前から、種を取って、種まきから増やそうとしています、種まきの時期が分からなかったこともあり今はびんに保管されている状態です。

ネットに栽培方法が書いてあったので、来年3月に種まきをしてみます、以下はネット情報です。

やや大きめの深鉢に赤玉土7、桐生砂3に腐葉土を2、3割混同した用土に排水よく植え込み、肥料は消石灰、苦土石灰、草木灰などを与えてアルカリ性を保つ。半日陰で風通しの良い所に置き、水は普通にやるが、花に水がかかると傷むので注意する。根づまりするほどに株が充実したら株分けをかねて、春の芽出し前後に植え替える。このとき土は落として全部新しくする。さし芽は6月に先端5cmくらいを砂にさし、実生は3月に播く。



<節黒仙翁の種>